



ふねあいのひろば

第16号



4月14日～18日 『富川市代表団』来日

ごあいさつ

会長 小坂 淳 夫

会員の皆様におかれましては、平素から本協議会の活動に対しまして、格別のご理解とご協力をいただき、厚くお礼を申し上げます。

「国際・福祉都市」を市政の目標に掲げる岡山市は、近年、アジア地域との連携を重視しており、特に、韓国富川市との交流が活発化しております。富川市とは、「岡山桃太郎まつり」をきっかけとして10年来の民間交流が続いておりましたが、昨年度は、両市市長の相互訪問が行われ、職員相互派遣事業が実施されました。本協議会といたしましても、これに呼応し子供海外派遣事業の派遣先として富川市を組み入れ中学生を派遣するなど、市民レベルの交流が着実に実を結びつつあるのを実感いたしております。

さて、本年4月に岡山市と中国洛陽市は友好都市締結20周年を迎えました。これを記念し、洛陽市への岡山市民友好訪中団の派遣をはじめとする様々な記念事業を実行委員会が計画いたしておりますが、皆様方のご理解を賜りながら、洛陽市との交流について積極的な協力をを行う所存であります。

また、岡山市と米国サンノゼ市との長年に亘る友好交流へのご貢献が評価され、米国カリフォルニア州在住のウェード・ホーバー氏が、昨年、外務大臣表彰並びに岡山県三木記念賞国際親善部門を受賞されました。ここに謹んで皆様にご報告申し上げます。

岡山空港を核としたアジアの諸地域との交流が、今後、更に拡大し、外国人の方々にとって「住みたい岡山」、「住みやすい岡山」となるよう、地域の国際化を推進するため、今後とも、国際交流事業の積極的な推進について、会員の皆様のより一層のご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

サンノゼ市から専門家受入れ

岡山市とサンノゼ市が実施している専門家相互派遣事業により、今回、サンノゼ市から教育分野の専門家としてジョン・パトリシオ・ロザノ氏が来岡され、岡山市内の教育施設の訪問、教育関係者との意見交換等を行いました。

氏名 John Patricio Lozano
(ジョン・パトリシオ・ロザノ)
専門分野 教育
職業 サンノゼ市サンタ・テレサ高校 Activity Director
受入期間 平成12年7月1日～7月11日



萩原市長を表敬訪問するロザノ氏

サンノゼ市日系祭 実行委員長来岡

本年1月16日から18日まで、サンノゼ市日系祭実行委員会委員長のジミー・ヤマイチ氏が来岡され、岡山のサンノゼ関係者との交流を深めました。

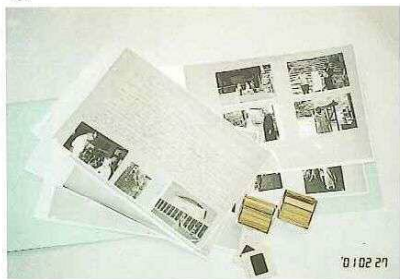


前列右から2人目がヤマイチ氏

元岡山・サンノゼ交換学生（昭和35年度受入）のパーティ・マクローリン・プレイディ氏から、当時の様子を撮影したスライド及び写真入りの資料が寄贈されました。また、今回の寄贈にあたり同氏に留学当時の思い出を綴っていただきました。

なお、いただいた資料は、友好交流サロン（岡山市幸町 西川アイプラザ内）で保存しておりますので、お気軽に閲覧ください。

①



②



③



④



写真①：プレイディ氏からいただいた資料の一部
写真②～③：昭和35年岡山留学当時
（②右から2人目、③2列目右から3人目）
写真④：平成11年6月来岡時（左）

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

私が岡山を初めて訪れたのは、サンノゼ市・岡山市の姉妹都市プログラムの一環で交換学生として、夏にDick Petersonとともに訪問した1960年のことです。

その後1969年、1974年また1998年、1999年に岡山を訪れ、谷口弥生氏と今は亡きお父上谷口澄夫教授とともに過ごさせていただきました。1960年に3週間ホームステイをさせていただいてから、弥生さんとは41年来の旧友であり、定期的に連絡をとりあう仲です。

1998年・1999年には、留学当時に市役所職員としてお世話をしてくださり人生の師でもあった河原行夫氏をお訪ねいたしました（氏は現在80代で大変お元気そうです）。互いに毎年新年の挨拶をカードでやりとりしております。今回の訪問の際に、留学当時のホストファミリーであった赤澤 博子氏、また岡崎 登氏、氏のご姉妹占部 幸子氏、斉藤 信恵氏、また石田 規夫氏、高原 郁夫先生などの友人の方々とも旧交を温め、それぞれのご家族ともお会いいたしました。また、新たに多くの友人・知人ができました。

1998年の訪問では、岡山の飛躍的な発展や日本における重要性についても気付くこととなりました。その発展の途中に失われてしまった歴史的資料についても関心を寄せるようになりました。小さな存在ではありますが、私自身が岡山の歴史の一部であることは大変光栄であり、岡山の歴史的資料を出来るだけ完璧な形で保存することが、私の責務ではないかと感じております。

1999年には岡山市国際課と谷口弥生氏のアレンジで、1960年当時のDickと私の様子を写したテレビ用フィルムビデオを萩原市長にお渡しすることが出来ました。市長に、この贈り物を市の歴史資料として喜んで受け取って頂きました。

交換学生プログラムに対し私が行ってきた支援についても市長にお話しいたしました。1960年の岡山滞在で生涯にわたる友情を得ることができ、また、若いうちにそのようなすばらしい体験をしたことで、視野も広がり異文化を理解することが出来るようになりました。岡山・日本で体験したことを様々な方にお聞かせし、広めております。

2000年12月、1960年当時の岡山の資料をさらに岡山市国際課の岩谷氏へお送りしました。スライドと写真のコピーです。私の代わりに、氏が西川アイブラザ友好交流サロンに資料を置いてくださいました（彼には大変お世話になっております）。ご覧になっていただければと存じます。また、ご自分の姿をお見かけになったら、お知らせください。

私と過ごし、岡山での経験を分かち合ってくださいありがとうございます。皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

パティ・マクローリン・ブレイディ

米国カリフォルニア州のウェード・ホーバー氏が、太平洋戦争従軍中の1944年に、ニューギニア戦線で入手した「日の丸の寄せ書き」と「バッジ」を返還するため、本協議会国富比左子理事を通じて持ち主、遺族探しをしています。

同氏は岡山市とサンノゼ市の交換学生制度において、1959年から1990年までの間、両市で交換留学した国富理事ら約65人の日本人留学生の身元保証人として支援を続け、昨年11月、ホーバー氏宅を訪問した国富理事に、日の丸などの持ち主探しを依頼しました。

現在も引き続き持ち主の調査をしておりますので、お心当たりの方は本協議会事務局までご連絡くださいますよう、よろしくお願いいたします。



日の丸の寄せ書き

33cm四方、筆で「武運長久お祈りしています」などと書かれ、「相原寿子」「杉田優子」など女性4人の名前が書かれている



バッジ

縦約5cm、横約4cmで、裏に「水飛校」「杉山」と記されている

昨年9月4日、岡山市と米国サンノゼ市の姉妹都市締結にご尽力いただき、岡山・サンノゼ交換学生制度の創始者でもある、ウェード・ホーバー氏が、第33回岡山県三木記念賞の国際親善部門を受賞されました。また、同氏は昨年7月7日付けで外務大臣表彰を受賞されています。



ナカシマプロペラ(株)中島 保名誉会長(右) から、サンノゼで開かれた受賞記念祝賀パーティにて三木記念賞を受け取るホーバー氏(左)

昨年10月22日から27日まで、サンノゼ市経済開発局インターナショナル・プログラム・マネージャーのジョーゼフ・R・ヘッジズ氏が来岡され、まきび会館に於いて「シリコンバレーの最新経済事情」と題した講演をされました。



時枝岡山市助役を表敬訪問

元サンホセ市技術研修生来岡

昨年10月13日、平成10年度に、自然災害・消防分野の技術研修生として来岡された、リセス・ロレーナ・ロメロ・バルガス氏が岡山市を訪れました。

同氏は、当時のホームステイ受入家庭の方や岡山のサンホセ交流関係者との交流を深めました。



今回来岡時(左)と平成10年来岡時(下・右端)のバルガス氏



ブルガリア商務官来岡

昨年11月16日から18日まで、ブルガリア商務官ニコラ・ミシェフ氏が来岡され、コンベックス岡山(岡山市大内田)に於いて開催された「ワールドフェスタ岡山2000」の商談会へ、ワインやチーズ等を出展するとともに、懇談会により市民との交流を深めました。

岡山市表敬訪問時(右)とコンベックス岡山の出展ブースにて(下)



洛陽市訪日団来日

昨年8月16日から25日まで、「洛陽市友好訪日団」一行7名（団長：趙 文庭）、「洛陽市各界人士友好訪日団」一行68名（団長：孫 長印）、「洛陽市青少年海外派遣団」一行31名（団長：貝 書偉）の3団により構成される、「洛陽市訪日団」一行106名が来日しました。滞在中は、岡山市を表敬訪問した他、市の関係施設などを訪問し、友好を深めました。



合同の岡山市長表敬訪問



合同の岡山市主催歓迎夕食会（於：メルパルク岡山）



友好都市締結時に洛陽市からいただいた友好旗を前に



当新田環境センター視察（青少年海外派遣団）



養護老人ホーム「友楽園」訪問（青少年海外派遣団）



瀬戸大橋視察（青少年海外派遣団）

犬島自然の家にてシーカヤックの体験学習
（青少年海外派遣団）



第11回洛陽市技術研修生帰国



周 国強さん（右端）



徐 斌さん（左）



陳 振偉さん（右）

平成11年10月に来日し、岡山理科大学で研修を受けていた第11回洛陽市技術研修生の3名が、一年間の研修期間を終え、昨年10月6日に帰国されました。

周 国 強

(研修先：岡山理科大学総合情報学部社会情報学科)

光陰矢の如し、一年が慌ただしく過ぎ、楽しい研究生活を過ごしました。岡山市の素晴らしい環境、便利な交通、快速な通信、さらに、勤勉な岡山市民のことは終生忘れ難いものとなりました。

この一年間に、岡山市役所が主催した県外見学、県内見学、企業見学など、いろいろなイベントに参加しました。また国際課の方々から、日常生活においていろいろな面でご援助とご配慮をいただきまして、心から感謝いたします。

私は岡山理科大学で、担当教授のご指導の下で、環境の研究を行いました。先生の真面目に仕事する姿とその豊富な専門知識にとっても感動していました。

また友好交流サロンと岡山国際交流センター等で、日本語を勉強したり、日本文化紹介講座に参加したりしました。日本語の応用能力を高めることができました。さらに、日本の文化を理解し、多くの友人と知り合うことができました。楽しい充実した毎日を過ごしました。

このチャンスを借りて、岡山市役所、市国際課並びに岡山市国際交流協議会、岡山理科大学、友好交流サロンと岡山国際交流センターの皆様一言どうもありがとうございました。

帰国後、私は日中両国の文化交流促進、洛陽市と岡山市両市の友情を深めるために貢献したいと思います。



陳 振 偉

(研修先：岡山理科大学工学部情報工学科)

光陰矢の如し、またたく間に一年間の研修生活は過ぎてしまいました。研修生活は楽しくて有意義でした。岡山市の美しい環境、友好熱心な市民は私の心に深く印象づけられました。いつまでも忘れないと思います。

この一年間に研修先の岡山理科大学で、担当教官の小畑先生のご指導の下、将来にとっても役立つ専門知識を学びました。また友好交流サロン、国際交流センターで、日本語講座や日本文化紹介講座等を受講したり、様々なイベントに参加したりしました。日本語の応用能力を高めて、日本文化の理解を深めて、世界各国の人々と知り合いました。充実した毎日を過ごしました。

この一年間岡山市役所国際課、岡山市国際交流協議会、岡山理科大学は私達の生活面や研修面において良い環境を提供してくれました。ここでお礼を申し上げたいと思います。

帰国後は続けて頑張ります。中日両国の友好を促進、また洛陽と岡山市両市の友情を深めるために貢献したいと思います。

徐 斌

(研修先：岡山理科大学工学部機械工学科)

わたしは、1999年の10月に、友好都市—洛陽市の市役所から派遣され、第11回洛陽市技術研修生として、美しい岡山市に参りました。今まで、一年になりましたが、早く感じます。去年のこの時、初めて岡山に着いた時の国際課の皆様と理科大学の先生方の笑顔は、いまだに忘れ難いです。この一年間で、国際課の皆様に、いろいろ教えていただきました。基本的なことから、細かいことまで、本当にわたしへの指導が行き届いていました。たいへんお世話になりました。ありがとうございます。一年間、あっという間に過ぎ去ってしまいました。わたしにとって、本当に良かった一年間、勉強の一年間でした。

岡山理科大学の研修先では、豊富な専門知識を持っている片岡先生に、たくさん知識をいただきました。先生は、いつも優しく、親切です。先生に教えていただいた時、おもしろくて、楽しかったです。そのいい思い出は、わたしの心に留めておきます。この先生から得ることのできた知識は、わたしの将来の仕事に役に立つと思います。

ところで、友好交流サロンと国際交流センターで、わたしたちの主な日本語を勉強する場所として、日本語をたくさん学びました。日本語の先生はとても熱心です。また、日本文化紹介講座を通して、もっと日本文化を理解することができました。そして、岡山のきれいな町、澄みきっている旭川、絵のような後楽園、雄大な岡山城などは、深い印象を頭に刻み付けました。特に、岡山市民の中国人民に対する友好感情は深く感動させられました。わたしは末永く中日友好の深まることをお祈り致します。皆様からの深いご理解とご厚意をいただきまったく感謝の言葉がございません。かさねて厚くお礼を申し上げます。わたしは決して皆様の期待を裏切るようなことは致しません。精いっぱい努力して、洛陽と岡山の友好の為に、できるかぎりのことをしようと思います。